



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 20

PROFILE

1980年広島県出身。CMへの楽曲提供、ナレーション、映画、ドラマ音楽などで活躍中。全国各地でライブを行う一方、チャリティイベントやセミナーに積極的に参加。ホストマザーとしての実体験を交えたトーク&ライブが人気。2009年、地元広島と長崎をつなぎたいと「ピースアンドラン事務局」を設立。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

9年前から、東京の自宅で留学生を受け入れています。きっかけは偶然出会った中国人の留学生が、日本で家を借りられず困っているのを知ったこと。当時「反日感情」という言葉が一人歩きしていたことも影響していたようなのですが、せっかく日本を選んで来てくれたのに「日本はこんな国なんだ」と思ってほしくなかった。そこで私にできることは何だろうと考えてたどり着いたのが、留学生のホストマザーになることだったのです。居心地の良い「実家」のような環境を提供し、日本での暮らしを楽しんでもらえればよいなど。その数は一人、二人と増え、これまでに26人の留学生と生活を共にしてきました。

私は学生時代を広島で過ごし、子どものころから「平和教育」を受けて育ちました。小学校の遠足は決まって原爆ドームのある平和記念公園。戦争が起きた理由や原爆の被害などについて調べたり、語り部さんを訪問するなどの活動を通して、い

違いに触れることが国際協力の第一歩

シンガーソングライター 玉城 ちはる

TAMAKI Chiharu



photo by 土橋一夫 (Surf's Up Design)

かに戦争が怖くて残酷なものなのかを知りました。「憎み合うより分かり合うほうが絶対にいい。そのためにはどうしたらいいんだろう」。子どもながらにそう考えていたのを覚えています。

異なる文化や考え方を持つ人間同士がぶつかるのは当然のことです。私の家でもけんかはしょっちゅうです（笑）。留学生は自分の意見をしっかりと持っている人が多いのですが、日本人は協調性が強いせいかはっきり“NO”と言えないことが多い。でも真っすぐな彼らと接しているうちに、私も「人の目を気にしすぎず、自分に正直に生きてみよう」と思えるようになりました。

私は彼らの“お母さん”なので、明らかに間違っていることには注意をします。でも、頭ごなしに否定するのではなく「こうした方がもっとみんなが気持ちよく生活できると思うんだけど、どうかな」と話すようにしています。違いを排除するのではなく、と

ことん話し合う。これが玉城家のルールです。また、彼らとの生活は私の音楽にも大きな影響を与えています。うれしい時、悲しい時、けんかした時・・・、いろいろな感情の歌を作ることができるようになったと思います。

開発途上国に足を運んでみたいという気持ちはもちろんあります。でも今はこうして日本でできることをするのが、私なりの国際協力だと思っています。まずは日々の生活の中で“違い”に触れてみる。それからボランティアでもフェアトレードでも、自分の興味があることから始めてみてはどうでしょうか。



『風になれば』
玉城ちはる 著
本分社
1,050円(税込)

歌、家族、ホストマザー、愛、父親について綴ったエッセイ集が好評発売中。